



井上 護 議員

《一般質問》

問 乳幼児医療費の助成拡充について

答 他の市町村の取り組み状況を参考にして検討する

町長 乳幼児医療費の支給制度については、乳幼児を抱える保護者の経済的負担の軽減を図ることで、乳幼児の保健の向上を図るものであり、子育てを頑張っている若い世代に安心して子育てができる環境をつくるための重要な施策の一つと認識している。このため、子育て支援の充実を図ることが重要な課題となっていることを踏まえ、本制

問 昨年の予算では子ども手当が3億1803万6千円で、今年の予算では2億9442万円となり2361万6千円減っている。それだけ子供や家族に入る手当が減ったことになる。現在は、3歳までの乳幼児は入院費・通院費とも無料である。しかし福岡県内では、小学校3年生まで入院費の助成実施をしている自治体は平成24年1月1日現在で27団体ある。大木町では、就学前までしか助成が行われていない。乳幼児の健康保持と福祉の増進を図るために医療費の助成拡充をお願いしたい。

問 近隣の大川市、みやま市、筑後市の子供の医療費助成はどうなっているのか尋ねたい。また、小学3年生まで入院費の助成すれば本町の負担はどれだけ増えるのか。

町長 道路整備については、基本的に路線を決定し、分割することによって事業効果を早く発現することで、路線を絞り込んで、集中的に予算を投資して早く完成させるといって現在の手法で取り組んでいる。したがって、計画からいくと、本件は10号線の後の事業となる。用地交渉等が困難が発生する場合は想定されることから、よく路線等の事情を調べながら検討したい。ただ、家屋の移転等の多額の費用を要する部分については、町費での取得は財政上困難であることから、国の交付金事業等を活用して整備する関係で、どうしても補助事業に乗せなければならぬ状況も発生するが、この路線については、一部土地改良事



1歳6か月健診

次に、入院費の給付を小学3年生まで拡大した場合の町負担については、1年間の小学1年生から3年生までの入院者数を昨年の国保入院者数を参考に推計したところ、1年間7件、金額では約55万円の負担増となる。



乳児健診



歯科健診

古賀 泰弘 議員

《一般質問》

問 通学道路改良工事について

答 平成29年度より新しく取り組む

町長 まず、現在の道路交通網の充実に向けた町道整備の基本的な考え方として、各小中学校周辺の通学路の安全確保を図るための自転車歩行者道の整備を主要施策の一つとして位置づけ、計画的な事業の実施に取り組んでいる。こうした中、大木中学校入口交差点から国道442号バイパスまでの650メートルを区間とする大木中学校周辺歩道整備事業については、平成21年度に総事業費1億4200万円をもって完成した。平成23年度か



大溝小からくるるん側を望む町道5号線

ら花宗川から三八松交差点までの1100メートルを区間とする町道10号線自歩道整備事業として、国の社会資本整備総合交付金を活用しつつ自転車歩行者道の整備を進めている。建物などの調査を行った上で、本年度より本格的な用地買収を実施し、事業完了は平成28年度を目標としている。大木中学校への通学道路、町道5号線の道路改良事業については、町道10号線自歩道整備事業完了後の次期事業として、自転車歩行者道の整備を行うものとして位置づけている。なお、その間の児童生徒の通学路の安全対策が必要な箇所については、個別に現地調査を行うた上で必要な措置を講じていく。

町長 道路整備については、基本的に路線を決定し、分割することによって事業効果を早く発現することで、路線を絞り込んで、集中的に予算を投資して早く完成させるといって現在の手法で取り組んでいる。したがって、計画からいくと、本件は10号線の後の事業となる。用地交渉等が困難が発生する場合は想定されることから、よく路線等の事情を調べながら検討したい。ただ、家屋の移転等の多額の費用を要する部分については、町費での取得は財政上困難であることから、国の交付金事業等を活用して整備する関係で、どうしても補助事業に乗せなければならぬ状況も発生するが、この路線については、一部土地改良事



くるるん側から北側を望む町道5号線



未整備区間の町道5号線

問 平成28年度までに町道10号線の工事を終え、平成29年度から新しく取り組むというようなことを、地権者に何らかの知らせをして、用地買収等は、早く予算化してもらいたい。土地だけでなく購入を希望するが、その点の考えを伺う。

業では内定している部分もあるので、個別案件については詳細に検討したい。